

# 幸福実現NEWS

党員  
限定版  
第 33 号

THE HAPPINESS REALIZATION NEWS

発行所 幸福実現党本部 〒107-0052 東京都港区赤坂 2-10-8  
電話 03-6441-0754 ©幸福実現党本部 2012年



幸福実現党立党3周年を  
間近に控えた5月13日  
東京・赤坂に党本部が入居する  
「ユートピア活動推進館」が落慶。  
大川隆法党名誉総裁より  
「宗教立国の実現」と題する  
法話が行われました。

## 宗教立国実現に向けて

# ユートピア活動推進館が落慶

大川隆法党名誉総裁は法話冒頭、首相官邸まで徒歩圏内に本拠地を構えたことに触れ、「幸福実現党宣言」から始まり、すぐに「新・日本国憲法草案」を出し、数多くの政治関係の本も出したので、一通り政党として立つだけの骨格というものができてきている。『幸福実現党なるものが、こういうものである』という姿は、だいたい出てきている」と、2009年の立党以来の3年間を総括しました。

## 世界のリーダー日本の あるべき姿をつくりたい

続いて、「私どもの主張を、民主党、自民党から、新しい動きをしているところまで、内容をそのまま持っていかれて使われているところも多い」と、わが党の政策を他党が後追いつく現状を指摘しつつ、「私たちは国家ビジョン、長期ビジョンを持っており、目の前のポピュリズムに走ることなく、不転換の気持ちで、言うべきことを言うべき」と宣言。

さらに、「世界のリーダーとなるべき日本の、あるべき姿をつくりたい」として、国防強化と経済成長、憲法改正の必要性を述べ、「この国を2倍ぐらいの成長をさ



## 自分の国は 自分で守る

法話でも言及されたように、わが国を取り巻く安全保障環境は悪化の一途をたどっています。

一昨年の尖閣諸島中国漁船衝突事件、今年3月の北朝鮮のミサイル発射は記憶に新しいところですが、そもそも何十年も前から中国は核ミサイルの開発・製造・配備を続け、その照準は日本の主要都市に向けられています。

隣国の軍事的脅威が増大する一方であるにもかかわらず、日本の防衛費は10年連続で減少。頼みの綱の米国も、大統領選の共和党候補指名争いで在日米軍撤退を公約に掲げた候補者がいたように、巨額の財政赤字解消のため、軍事費の大幅削減を迫られています。

今後も普天間基地等への反対運動が続くようであれば、「それほど嫌われながら、日本人の命を守る必要はない」と、米軍が沖縄から撤退してしまう可能性もあります。

1992年、地元の反対運動によりフィリピンから米軍が撤退したところ、3年後、フィリピンが領有権を主張していた南沙諸島の一部が中国に占領されました。もし、沖縄をはじめとする日本各地から米軍が出ていくような事態になれば、わが国を自衛隊単独で守り切ることが難しく、「日本占領」が現実化してもおかしくはないのです。

わが国は日米同盟を堅持しつつ、憲法9条を改正するなどして自主防衛体制を築き、「自分の国は自分で守る」という気概を示さなくてはなりません。これは主権国家として当然の姿なのです。



## 法話「宗教立国の実現」 ユートピア活動推進館で開示中

- ・個別対応にて、随時開催します。
- ・講師による解説つきの開催日程は、行事カレンダーをご覧ください。
- ・ご要望があれば、政党役員(または政党スタッフ)による出張開催も行います。
- ・6月中のみ、全国の幸福の科学の精舎でも開示されます。

お問い合わせはユートピア活動推進館へ

03-6277-6937  
(開館日 10:00 ~ 18:00)

## 「沖縄・九州防衛 プロジェクト」発足!

このたびの法話を受け、幸福実現党では、迫りくる中国、そして北朝鮮の軍事的脅威から沖縄・九州を守り抜くために「沖縄・九州防衛プロジェクト」を発足させました。

国防強化の世論形成に向け、地元紙への意見広告掲載、フリーペーパーの発刊などを予定しています。

なお、この活動を支えるために、「沖縄・九州防衛基金」を開設しました。7月末までの党本部への寄附は防衛基金として扱っていただきますので、ご支援のほど、よろしく願い申し上げます。

党本部への寄附については、下記ホームページをご覧ください。

<http://www.hr-party.jp/new/entry/collect>



〈幸福実現ニュース〉は幸福実現党の機関紙です。1、2面はネットからダウンロードもできます(無料)。※幸福実現党の党員の方には、全4面のペーパー版が郵送されます(党員登録が必要です)。

PDF版ダウンロード(無料)はこちらから

<http://www.hr-party.jp/new/activity/newspaper>

# シリーズ 日本 再建

## 戦後沖縄史観の虚構を正す 沖縄と本土の絆①

(全2回)

### 勝岡寛次氏に聞く

明星大学戦後教育史研究センター

2005年から07年にかけて琉球大学が行った「沖縄住民のアイデンティティ調査」によると

「自分は日本人だ」と答えた人は25%

「沖縄人」と答えたのは40%

そして30%は「日本人であり沖縄人」と答えたという

沖縄のルーツはどこにあるのか

勝岡寛次氏の党政策部会での講義に探ってみよう。



中国は今、「琉球独立工作」

を盛んに画策していますが、彼らは「琉球属国史観」の立場から沖縄を見ています。当初、琉球王国は明の属国であり、明が滅んだ後は、清の属国となった。そして1879年、琉球処分により日本の統治下に置かれて以降は「後琉球王国時代」とし、現在は日本の不当な植民地支配下にあると見なしています。

これに対して日本が、「沖縄・本土一体史観」というべきものを持っていくかといえ、全く持っていないのです。

### 沖縄のルーツは中国？ それとも日本？

沖縄と本土は、人種的・歴史的・言語的に見てルーツが同じなのかどうか、検討してみましょう。

まず人種的には、発掘された

「朝伝説」は、沖縄のルーツが本土にあることを象徴する物語だと思っています。

頭蓋骨の測定結果から、近世沖縄人は渡来系弥生人、もしくは現代日本人と同一グループに属することが分かっています。

歴史的ルーツはどうでしょう。沖縄は長らく狩猟採集段階にあり(貝塚時代)、本土でいえば平安末期になって、突如として農耕社会が出現します。その理由として、「12世紀前後に九州の日本人が南西諸島に南下した。これが今の沖縄県民の直接の先祖ではないか」との学説が近年有力になっていきます(注1)。

1650年に成立した琉球王国の正史「中山世鑑」では、最初の王・舜天は源為朝の子であるとしています。為朝は頼朝の叔父で、弓矢を取っては天下に並ぶ者がいないという英雄です。若い頃に九州に流され、たった3年で九州全土を平定したという逸話もあります。私はこの「為

### 中華秩序に 組み込まれた琉球王国

農耕社会の成立以来、沖縄では按司と呼ばれる地方豪族が抗争を繰り返すようになりまし。そして1429年、尚巴志が沖縄を統一し、琉球王国が成立。明から冊封を受けます。では、琉球王国はどこまで中華秩序に組み込まれていたのでしょうか。

琉球は原則として2年に1回、明に朝貢し、その回数は171回に上りました。これは2位のベトナム(89回)を大きく引き離して最多数です。

また、琉球国王は中国・朝鮮・東南アジア諸国との外交文書の全てにおいて、純然たる漢文を使用し、詔書に当たる辞令書の年号には明の年号を使用していました。このことは、琉球王国が紛れもなく中華秩序の下にあった事実を示しています。

その結果、首里城は紫禁城に似せて造られ、冊封使という中国からの使者を迎えるために守礼門が建てられました。また明の時代、沖縄には多数の中国人が渡来し、那覇市内の久米という中国人居留地に住んでいました。彼らは「久米三十六姓」と呼ばれ、中国人の子孫であることを誇りとし、琉球政府の要職を占めました。その伝統は今も色濃く残り、仲井真弘多沖縄県知事、

稲嶺恵一前知事ともに、その末裔と言われています(注2)。

### 意識的・文化的には 日本の影響下に

琉球王国は完全に中国の子分になってしまったように見えますが、よくよく調べてみると必ずしもそうとは言えません。

先ほど紹介した「中山世鑑」を編纂した羽地朝秀は、「王家の祖先だけでなく、琉球の人々の祖先全部が日本からの渡来人である」と述べていますし、琉球王家の国章は、全国に4万社ある八幡宮の総本山・宇佐神宮の神紋と同じです。九州から沖縄に渡った人たちが八幡様を信仰していたとすれば、これは不思議なことではありません。琉球王国で話されていた言葉も、中国語ではなく日本語でした。

もし、琉球王国が完全に中華秩序の下にあったとすれば、琉球国王と將軍は対等ではなく、琉球国王が上、琉球国王が下という明白な上下関係があったことも、近年の研究で判明しています。

しかし、これは大きな歴史のズパンで見ると、日本本土をルーツとする琉球王国が、母国日本に帰属する第一歩であったとも言えるのです。近世琉球を代表する政治家・蔡温は、「御教条」という修身書の中で、「薩摩の支配を受けるようになり、わが国はようやく安定し、政法・人心ともに改まった」と述べているのです。

の経済的利益に目がくらみ、国を挙げて中国に朝貢したものの意識的・文化的には日本の一部であったと言ってしまうのです。1609年、薩摩藩の侵攻により、琉球王国は事実上、日本の支配下に組み込まれます。琉球国王は即位のたびに江戸の將軍に謝恩使を派遣し、また將軍が替わるたびに慶賀使の派遣を義務付けられました。また、那覇には薩摩のお目付機関である在番奉行が置かれ、多額の納税を余儀なくされました。

(注1) 安里進、高宮広士など。  
(注2) 惠隆之介著「誰も語れなかった沖縄の真実」(ワック)



(かつおか・かんじ) 1957年、広島県生まれ。早稲田大学第一文学部卒業。早稲田大学大学院博士課程修了。現在、明星大学戦後教育史研究センター勤務、皇學館大学非常勤講師。2006年、八木秀次氏らと共に「日本教育再生機構」を立ち上げる。専門は戦後教育史。著書に『韓国・中国「歴史教科書」を徹底批判する』(小学館)、『沖縄戦集団自決虚構の「軍命令」』(明成社)などがある。

大川隆法 最新刊!

「バブル潰し」は正しかったのか?!

平成の鬼平へのファイナルジャッジメント

日銀・三重野元総裁のその後を追う  
日本経済を20年不況に追い込んだ日銀元総裁の生前の功罪がいまジャッジされる。死後わずか2週間の公開発言

定価 1,470円(税込)

橋下徹は宰相の器か

緊急守護霊インタビュー  
マスコミが「次の総理」と持ち上げる橋下徹大阪市長の本音に迫る!

定価 1,470円(税込)

幸福の科学出版 http://www.irhpress.co.jp/ 0120-73-7707 FAX.03-5573-7701 1,470円以上国内送料無料 幸福の科学出版の書籍はホームページ、電話、FAXでもご注文いただけます。発行 幸福実現党